



1. かりうちの名前の由来となる、一面を削った棒「かり」。サイコロの代わりに、「かり」4本を一度に投げて、出た目の数だけ進むことができます。吉野の木工所さんとの協力で、奈良県産のヒノキを材料に使用することができました。

2. 木製のコマを安価に製作するのは、至難の業。現在のかりうちキットのコマには、合板を使用していますが、今後の普及に向けて、ヒノキ材でのコマ試作を進めています。

3. かりやコマを収納することができるウレタンの収納ケースも製作しました。小さなおどもたちでも長く使えるように、という願いが込められています。

協力：橋本印刷株式会社、有限会社菊谷木工所、小瀬太平商店、株式会社サカタ企画印刷、株式会社昌和三

よみがえった古代のボードゲーム「かりうち」

奈良文化財研究所では、奈良時代に大流行した盤上遊戯「かりうち」を現代のゲームとしてよみがえらせる「かりうちプロジェクト」に取り組んでいます。昨年11月に販売を開始した、この「かりうちキット」の製作では、研究員がデザインや用具を手作りすることに始まり、奈良県内の印刷会社さんの協力を得ながら試作を繰り返しました。出土遺物からわかる特徴を基本としながらも、現代人の私たちが使いやすい形状、質感にこだわって、最終的なかたちが出来上がりました。

この4月から、国立文化財機構文化財活用センターと協働で、全国の学校団体や博物館等を対象とするアウトリーチプログラム「奈良時代を体験!!よみがえった古代のゲーム「かりうち」で遊ぼう！」が始まります。地元・奈良をはじめ全国各地の多くの方に、「かりうち」を楽しむことを通じて、歴史や遺跡に親しんでいただけることを願っています。

(文化遺産部 高橋 知奈津)



かりうちキット(普及版・キッズ版)